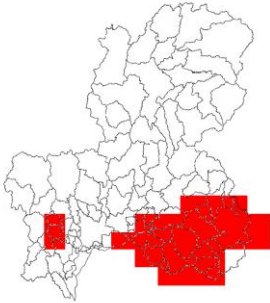


フモトミズナラ	<i>Quercus serrata</i> Murray subsp. <i>mongolicoides</i> H.Ohba	準絶滅危惧
		ブナ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起こる懸念があり、県内個体の絶滅につながる可能性があるため。	<p>写真(高野裕行)</p> 
形態の特徴	ミズナラに似る。葉の大きさはミズナラと同程大だが、鋸歯は鈍頭。花は4-5月、堅果は晩夏に熟し、残った柱頭の周辺が凹む広卵状楕円体、殻斗の総苞片は覆瓦状に圧着し背部は顕著にコブ状。	
生態的特徴	岐阜、愛知などの丘陵地の落葉広葉樹林に生育する。いわゆる東濃型湿地に続く斜面や尾根によく見られる。	
分布状況	本州(東海)。北関東にも分布するとされる。県内では県南の主に東部のいわゆる東濃型湿地に続く斜面や尾根に分布。分布標高がコナラと重なる。	
減少要因	いわゆる東濃型湿地と連続する起伏のなだらかな丘陵の開発。	
保全対策	生育する丘陵の開発抑制。	
特記事項	かつてモンゴリナラとよくいわれた植物。樹高が低い段階で枯死するものが多い。分布標高がコナラと重なる点を重視しその種内分類群とする説もあるが、ミズナラの種内分類群とするのが妥当であろう。ただし、ここで使用している学名は有効ではない。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II a. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Fagaceae H. Ohba	

文責: 高野裕行